

新世界
NEW WORLD



全国高职高专院校规划教材·商务日语专业

日本文化とマナー

日本文化与礼仪

郭 晓 主编



对外经济贸易大学出版社

University of International Business and Economics Press

图书在版编目 (CIP) 数据

日本文化与礼仪: 日文/郭晓主编. —北京: 对外经济贸易大学出版社, 2009
新世界全国高职高专院校规划教材. 商务日语专业
ISBN 978-7-81134-519-3

I. 日… II. 郭… III. ①日语—高等学校: 技术学校—教材②文化—日本—高等学校: 技术学校—教材③礼仪—日本—高等学校: 技术学校—教材 IV.
H36 G131.3 K893.13

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2009) 第 077679 号

© 2009 年 对外经济贸易大学出版社出版发行

版权所有 翻印必究

日本文化与礼仪 日本文化とマナー

郭 晓 主 编

责任编辑: 张 欣 胡小平

对外经济贸易大学出版社

北京市朝阳区惠新东街 10 号 邮政编码: 100029

邮购电话: 010-64492338 发行部电话: 010-64492342

网址: <http://www.uibep.com> E-mail: uibep@126.com

山东省沂南县汇丰印刷有限公司印装 新华书店北京发行所发行

成品尺寸: 185mm × 260mm 16.25 印张 376 千字

2009 年 6 月北京第 1 版 2009 年 6 月第 1 次印刷

ISBN 978-7-81134-519-3

印数: 0 001 - 3 000 册 定价: 25.00 元

出版说明

“新世界全国高职高专院校规划教材·商务日语专业”是对外经济贸易大学出版社联合全国重点职业学院的骨干教师推出的一套全新的商务日语系列教材。本套教材适用于全国高职高专院校日语专业商务/应用/外贸日语方向的学生。

目前高职教育提出了“工学结合，项目为中心，案例驱动教学，边讲边练”为核心的理念。本套教材就是贯彻这个理念，着眼于提高学生实际操作能力和就业能力的目的，采取了模块化、多案例、互动式、重实训的编写方式，让学生在理论够用的基础上，在实训环节上有所突破。

根据国家教育指导思想，目前我国高职高专教育的培养目标是以能力培养和技术应用为本位，其基础理论教学以应用为目的、够用为尺度、就业为导向；教材强调应用性和适用性，符合高职高专教育的特点，既能满足学科教育又能满足职业资格教育的“双证书”（毕业证和技术等级证）教学的需要。本套教材编写始终贯彻商务日语教学的基本思路：将日语听说读写译技能与商务知识有机融合，使学生在提高日语语言技能的同时了解有关商务知识，造就学生“两条腿走路”的本领，培养以商务知识为底蕴、语言技能为依托的新时代复合型、实用型人才。

本套教材包括《日语综合教程》《日语听力》《日语翻译》《日语阅读》《商务日语口语》《商务日语报刊文章选读》《商务日语函电》《日本文化与礼仪》等。本套教材不是封闭的，而是随着教学模式、课程设置的课时变化，不断推出新的教材。

本套教材的作者不仅具有丰富的教学经验，而且具有本专业中级以上职称、企业第一线工作经历，主持或参与过多项应用技术研究，这是本套教材编写质量的重要保证。

此外，本套教材配有教师用书或课件等立体化教学资源，供教师教学参考（见书末赠送课件说明）。

对外经济贸易大学出版社

2008年5月

前 言

中日两国“一衣带水”，友好交流的历史长达两千年。随着我国改革开放的不断深入，中日两国间经济、文化的交流也日益扩大，日企投资、人员往来逐年递增。学好日语，了解日本成为就业、工作的重要条件。可是，中日两国有着不同的文化背景，中国人和日本人在相处的过程中，难免出现不协调的地方。礼仪修养，不仅是现代文明人必备的基本素质，更是社会交往、商务活动成功的重要条件之一。学习日本的礼仪常识，有助于了解日本文化，与日本人建立良好的人际关系，加强双方交流与合作，避免发生误解。基于以上原因我们编写了这本《日本文化与礼仪》。本书不仅可以供高职高专等大专院校日语专业作为教材来使用，也可作为相关人士，及中级日语学习者的参考资料。

本书主要由文化篇和礼仪篇两部分组成，共二十章。文化篇涵盖了日本的地理、历史、政治、传统文化、文学、经济、教育体育、宗教思想、风俗习惯，社会生活等绝大部分领域；礼仪篇介绍了基本礼仪、商务基本礼仪、工作会议礼仪、访问接待礼仪、电话传真礼仪、书信及商务信函礼仪、交通工具礼仪、餐饮礼仪、求职面试礼仪等内容。每个章节在叙述中力求简明扼要，在有限的篇幅中尽可能多地介绍各方面的知识，努力使一个全方位的日本呈现在读者面前。为了方便大家学习，在书后附有每一章单词的标注。

本书是由郭晓担任主编，徐国清担任副主编，具体参加编写的人员有：第一章 黄艳；第二章 郭晓；第三章 高燕；第四、五章 杨柳；第六章 黄艳、徐国清；第七章 宋怡繁；第八、九章 魏映双；第十章 徐国清；第十一章 郭晓、宋怡繁；第十二章 黄艳、郭晓；第十三、十四、十五、十六章 宋怡繁；第十七章 高燕；第十八章 郭晓、杨柳；第十九章 魏映双；第二十章 郭晓。

本书在编写过程中，得到了对外经济贸易大学出版社编辑和天津对外

经济贸易职业学院外语系房玉靖、刘玉玲两位主任的大力支持和帮助。日语专业的学生宋雅娴、王洁莹也在编写过程中付出了很大辛苦；在我校任教的日籍教师井上直树先生对全文进行了审阅，在此一并表示感谢。

另外，在编写过程中，我们参考了许多书籍和资料，吸收和借鉴了有关研究成果，使我们受益匪浅，在此对诸位研究者深表敬意和感谢。由于我们学识有限，疏漏之处在所难免，诚望得到各方面的批评、指正。

编 者

2009年1月

目 録

文化篇

第一章 地理	3
第一節 国土と人口.....	3
第二節 自然環境.....	6
第三節 動植物.....	7
第四節 交通.....	9
第五節 自然と文化遺産.....	10
第二章 歴史	12
第一節 原始・古代（およそ 1 万年前～紀元後 11 世紀）.....	12
第二節 中世（12～16 世紀）.....	17
第三節 近世（16～19 世紀半ば）.....	18
第四節 近代（19 世紀半ば～1945 年）.....	20
第五節 現代（1945 年～ ）.....	22
第三章 政治と象徴	25
第一節 政治.....	25
第二節 象徴.....	28
第四章 伝統文化	30
第一節 言葉と衣食住.....	30
第二節 伝統芸能.....	36
第三節 いろいろな伝統文化.....	38
第五章 文学	42
第一節 上代文学.....	42
第二節 中古文学.....	43
第三節 中世文学.....	45
第四節 近世文学.....	46
第五節 近代文学.....	47
第六節 現代文学.....	49

第六章 経済、産業構造と企業文化	51
第一節 経済.....	51
第二節 産業構造.....	54
第三節 企業文化.....	55
第七章 教育、スポーツとマスコミ	59
第一節 教育.....	59
第二節 スポーツ.....	62
第三節 マスコミ.....	66
第八章 風俗習慣	69
第一節 年中行事.....	69
第二節 祝日・休日.....	73
第三節 「冠」.....	76
第四節 「婚」と「葬」.....	77
第五節 「祭」 元旦から大晦日までの歳時暦.....	78
第九章 宗教、神話と精神	82
第一節 仏教.....	82
第二節 神道とキリスト教.....	84
第三節 神話と伝説.....	85
第四節 精神と思想.....	87
第五節 義理と人情.....	89
第十章 社会と生活	91
第一節 少子高齢化.....	91
第二節 社会と生活.....	93
第三節 レジャーと娯楽.....	97

マナー篇

第十一章 マナーの基本知識	103
第一節 マナーの基本.....	103
第二節 コミュニケーション.....	108
第三節 ものの受け渡し.....	112
第十二章 ビジネスマナー	115
第一節 出勤.....	115
第二節 社内マナーと秩序.....	118
第十三章 業務姿勢と会議のマナー	122
第一節 「報連相」で良い結果が出る.....	122
第二節 業務中の基本ルール.....	124

第三節 同僚との接し方.....	125
第四節 会議.....	127
第十四章 来客対応と訪問のマナー.....	130
第一節 来客対応.....	130
第二節 訪問.....	135
第十五章 電話、ファックスとメールのマナー.....	140
第一節 電話対応.....	140
第二節 ファックスとメール.....	146
第十六章 手紙、葉書、ビジネス文章のマナー.....	149
第一節 手紙の書き方.....	149
第二節 葉書の書き方.....	153
第三節 ビジネス文章.....	157
第十七章 乗り物のマナー.....	164
第一節 エレベーターのマナー.....	164
第二節 自動車のマナー.....	165
第三節 飛行機内のマナー.....	166
第四節 電車・バス・地下鉄・新幹線.....	168
第十八章 食事のマナー.....	170
第一節 食事の基本マナー.....	170
第二節 和食.....	171
第三節 洋食.....	176
第四節 立食、お酒.....	178
第十九章 冠婚葬祭と贈答のマナー.....	182
第一節 「冠」に関するマナー.....	182
第二節 「婚」に関するマナー.....	184
第三節 「葬」に関するマナー.....	187
第四節 「祭」に関するマナー.....	188
第五節 他の贈答.....	190
第二十章 就職活動に関するマナー.....	192
第一節 就職活動の準備.....	192
第二節 面接のマナー.....	196
単語リスト.....	204
参考文献.....	248



文化篇

第一章

地 理

第一節 国土と人口

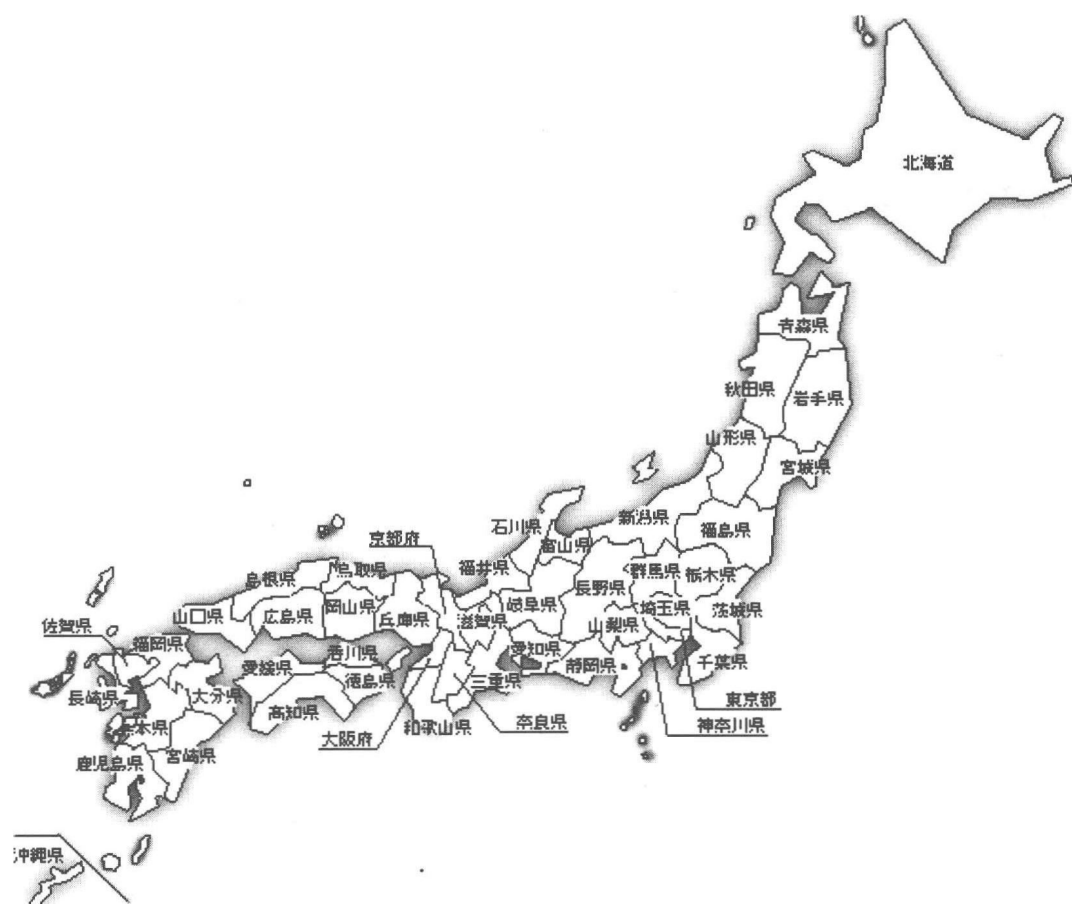
一、位置と国土

日本は、アジア大陸の東側に沿って、弧状に位置している島国である。国土は、北から、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄の九つの地方に分けられる。4000以上の島の内、主なものは北海道、本州、四国、九州の四つである。日本は日本海と東中国海を隔てて、中国、韓国、北朝鮮と向かい合い、東は広い太平洋を隔てて、アメリカ大陸と相対している。北にはオホーツク海を隔てて、ロシアのシベリアがあり、南には太平洋を隔てて、フィリピンやインドネシアなどの国々がある。国土の面積は約38万キロメートルである。

こうした地理は、外国の文化を取り入れられる有利さを持っているため、日本は固有の文化を伝えながら、外来文化も取り入れ、独自の融合文化を築いてくることができた。

二、行政区

行政上では、日本は一都（東京都）、一道（北海道）、2府（大阪府、京都府）、43県に分けられている。日本の47の行政区域の中で、面積が一番広いのは北海道で、東京都の37倍もあり、一番狭いのは大阪府で、北海道の45分の一しかない。地理上、日本は北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄の八つの地方に分けられるが、このほかに、気象上、交通上、産業上など目的に応じてさまざまな区分がある。



行政区一覽表

地方	内訳	行政区	面積 (k m ²)	官庁所在地
北海道		北海道	83519.25	札幌市
東北地方		青森県	9001.97	青森市
		岩手県	15095.18	盛岡市
		宮城県	7291.52	仙台市
		秋田県	11433.08	秋田市
		山形県	9326.60	山形市
		福島県	13783.39	福島市
関東地方		茨城県	6093.65	水戸市
		栃木県	6413.79	宇都宮市
		群馬県	6355.61	前橋市
		埼玉県	3799.32	浦和市
		千葉県	5145.72	千葉市
		神奈川県	2401.18	横浜市
		東京都	2160.64	東京都

续表

内訳 地方	行政区	面積 (k m ²)	官庁所在地
近畿地方	三重県	5777.08	津市
	滋賀県	4016.00	大津市
	京都府	4612.89	京都市
	大阪府	1866.85	大阪市
	兵庫県	8376.06	神戸市
	奈良県	3692.15	奈良市
	和歌山県	4723.78	和歌山市
中国地方	鳥取県	3492.65	鳥取市
	島根県	6628.22	松江市
	岡山県	7089.33	岡山市
	広島県	8464.57	広島市
	山口県	6103.60	山口市
四国地方	徳島県	4145.20	徳島市
	香川県	1881.50	高松市
	愛媛県	5670.52	松山市
	高知県	7107.03	高知市
九州地方	福岡県	4955.11	福岡市
	佐賀県	2433.06	佐賀市
	長崎県	4110.06	長崎市
	熊本県	7214.79	熊本市
	大分県	6336.44	大分市
	宮崎県	7179.43	宮崎市
	鹿児島県	9163.44	鹿児島市
沖縄地方	沖縄県	2250.87	那覇市

三、人口

2005年の国勢調査によれば、日本の総人口は、約1.28億人であった。日本は単一民族国家であるという「神話」が長く流布されてきたが、北海道にアイヌ人もいた。日本民族以外で日本に居住する民族として、朝鮮人、中国人もいる。1980年代からは、とくに東南アジアその他から労働力として日本に渡来する者がしだいに多くなってきている。

人口の分布は、温暖で交通・産業の発達した太平洋側の海岸沿いの平野に多く、本州の南関東から北九州にかけて人口の70%が集まっている。また、工業の発展に伴って、人口が都市に集中し、農村では著しく減少した。現在、日本には人口100万以上の都市が11ある。北から、札幌、東京、横浜、川崎、名古屋、京都、大阪、神戸、広島、福岡、北九州である。東京は日本の首都であり、政治、経済、文化の中心地にもなっている。人口は約1,100万であり、日本で一番大きな都市である。日本の人口の

約十分の一の人が東京に住んでいる。

第二節 自然環境

一、地形

日本の国土の地形を見ると、61%が山地で、高く険しい山や火山が多いのが特徴である。そのため、地形は変化に富む。川は短く急流で、山あいでは深い峡谷をなし、海岸線は複雑に入り組んでいる。風光明媚なところが多く、温泉地も点在している。国土の利用状況は、森林は66.6%で、農用地は13.8%。そのほか、宅地、道路、水面、河川などである。また、国土のうち、民有地(約16万km²)の使用状況は、山林(49.7%)、田(17.5%)、畑(15.7%)、宅地(8.9%)、原野などである。

二、山、川、湖

日本列島には山地や山脈が多く、日本の全国土面積の75%を占めており、大きな平野はない。そのほか、火山も多く、大小合わせて76もあり、活火山だけでも50あまりある。富士山は日本で一番高い山で、高さが3,776mあり、典型的な円錐形活火山で、美しく広く裾野を持ち、冬には中腹まで雪に覆われ、一層美しさを増やす。また、そば山がないので麓から頂上まで見えるので、どちらから見ても、ほとんど同じ形である。

川は短くて急流が多く、最も長い信濃川でも367kmである。落差の大きい急流は水力発電に適し、美しい峡谷を作っているが、交通にはほとんど利用できず、洪水を起こす危険もある。

湖は山間にあり、水が澄んでいて眺めの良いものが多い。湖の中で一番大きいのは琵琶湖であり、その面積は674km²である。琵琶湖は地盤運動によって断層が生まれ、それが落ち込んできたものである。また最も深い湖は田沢湖で、水深は423mである。日本の湖は主に水上交通、灌漑、発電、工業用水、養魚などに利用されており、景色の良い湖は観光地としても利用されている。

三、海洋

日本列島は、熱帯から亜寒帯まで2400キロメートルにもわたって南北に長く連なる。したがって、海洋の亜熱帯循環と亜寒帯循環とによる両方の海流が日本近海を流れ、しかも太平洋の西縁部にあたるので西岸強化作用を受け、強い流れとなっている。亜熱帯循環に乗って、日本付近を南から北上してくるのが黒潮であり、亜寒帯循環に乗って北から南下してくるのが親潮である。

日本は四面を海に囲まれているので、産業や経済は海に依存するところが大きい。潮境が変われば生息する魚種が変化するばかりでなく、生態系に影響が出て個体数にも大きな増減が表れ、漁獲量の違いをもたらす。海流が変わると、輸出入品の輸送に影響し、水温そのものも変わらなくても気候や気象に影響する。

四、気候

気候から見ると、日本列島は、南北約3000kmに及んでいるため、亜熱帯から亜寒帯にわたり、複雑な地形や海流の影響で、気候は地域差が著しいのが特徴である。し

かし、大部分の地域は温帯にあり、海洋性の温暖な気候で、春夏秋冬の四季の区別がはっきりしている。中央部の東京の平均気温は 15.3℃ である。春と秋は、日本の大部分の地域では良い季節である。春の新緑と花見、秋の紅葉と果物狩りなどは、人間と自然との融和を示す風物詩である。早春から夏の植物生育期、特に 6 月から 7 月の梅雨期にはよく雨が降る。夏と秋に年数回は襲来する台風も多量の雨をもたらす。冬では、北西季節風が吹いて雪が降り続く日本海側と、晴天が多く乾燥した太平洋側と対照的な天候分布になる。夏は高温で多湿な小笠原気団が北上して日本を覆い、熱帯なみの暑さとなる。全般に天気はよく、降水量は山沿いの地方を除けば一般に少ない。

五、自然災害

日本では、6 月から 7 月にかけて、北海道以外の地域では高温、多湿の雨期（梅雨）があり、8 月から 10 月にかけて南西部では台風の影響を受けることが多い。台風は南の海で発生した熱帯性低気圧がだんだん発達したものである。台風の進路は大抵決まっている。南の海で発生し、北に向かって進む。梅雨前線や台風の接近時には、集中豪雨が発生し、山崩れや堤防の決壊を起こすことがある。

日本は火山の多い国であるので、火山の爆発も多く、時には災害となる。この火山は日本列島に被害をもたらすだけではなく、各地に温泉を湧き出し、人々の健康に寄与している。

日本列島は、環太平洋火山帯の上にあるため、火山活動も活発で、地震の多発地帯となっている。地震の被害が多く、日本列島各地で頻繁に発生する。日本人は世の中の恐ろしいものの順位を「地震、雷、火事、親父」と表現することから。地震の恐ろしさが伺われる。1923 年の関東大震災、1936 年の南海地震、1995 年の阪神大震災などはその例である。地震とともに発生する津波や山崩れによって家屋の倒壊などの被害を受けることが多い。

自然災害に対して、日本人は長い間に努力を重ねて、その被害を最小限に食い止めようとしてきた。防波堤や防風林を造ったり、河川工事、ダム建設などを行ったりする。天気予報、そして地震や火山爆発の予知の研究が進み、建造物にも世界最高水準の安全基準が設けられている。

第三節 動植物

一、動植物

日本の気候の地域差は顕著であるので、植物の生態は複雑で多極化している。全国土の 4 分の 3 が森林に覆われた山地である。日本にある約 4,500 種の植物のうち、約 1,000 種は日本固有種である。北海道を含む日本北部には、榎松などの針葉樹と似たシベリア地域と似通った植物が見られる。日本中央部から九州へかけての平地には、クリなどの温帯落葉樹が多い。桜の花は日本の代表的な花として広く親しまれている。花と言えば桜を指すことが多い。3 月頃から 5 月上旬にかけて行われる桜の花を觀賞することを花見と言うのである。日本は植物相が複雑であるので、動物相も寒帯性動物から熱帯性動物まで極めて多様に発達している。北海道には、ヒグマなどシベリア

の動物と同種のものがある。本州には中国大陸・朝鮮半島と共通した動物がたくさんいる。日本には北海道を除くどの地方にも、サルが一種だけ生息している。沖縄や南西諸島には、イリオモテヤマネコ・ハブなどの熱帯性動物も多い。

二、動植物のイメージ

■ 狸



昔から狸はいろいろなものに化けて人をだますとされる。また、音をまねるのが得意である。大きな腹を張り出し、小笠を首にかけ、酒とつくりと通帳を下げた信楽焼きの像がよく見かけられる。「狸ねいり」は、寝たふりをする事で、狸を急に驚かすと仮死状態になって人をあざむくことからきている。「狸親父」はずるい、年をとった男の人という。

■ 犬

犬は縄文時代から家畜として飼われていた。英語と同じように、日本語の表現でも犬のイメージもよくない。「犬死にする」は「無駄に死ぬ」の意味であり、単に「犬」といえば、「スパイ、回し者」のことで侮辱語である。昔話の「桃太郎」や「花さか爺」にも、犬は重要な役割で出てくる。白い犬は霊犬とされていたので、昔話の犬はしばしば白い犬として語られる。日本では、欧米のようにしつけは厳しくない。また愛犬は死ぬまで可愛がるが、不要な犬は簡単に捨てることも時々ある。犬には「太郎」「ジョン」といった人名や、「クロ」「ポチ」といった犬専用の愛称をつける。犬の鳴き声は「ワン、ワン」である。

■ 猫

猫のイメージは悪く、「猫を殺せば七代たたる」とか「化け猫」などと言う。日本には魔女の手先という迷信はない。日本で猫といえば、夏目漱石の猫を主人公にした小説「我輩は猫である」を思い出す人が多い。昔から猫が飼われたのは、ネズミを退治してもらうため。飲食店など客商売の家で「招き猫」という置物を飾る。後足で身を立て、一方の前足を挙げて人を招いている猫の置物では、顧客、財宝を招く縁起物とされている。猫の鳴き声は「ニャン、ニャン」「ニャー、ニャー」である。

■ 鯛

鯛は「めでたい」に通じるところから、縁起物とされ、結婚式をはじめとする祝儀の席に欠かせないものである。「腐っても鯛」という表現は、もともと優れた価値のあるものは落ちぶれてもそれなりの価値があるという意味で、日本人の鯛への愛着ぶりをよく表している。

■ 鯉

欧米では薄汚い魚、大食いで食欲、ばか者といった、あまりよくないイメージをもたれているが、日本と中国では、勇気、忍耐、努力の象徴であり、男子の意気を表す。鯉は滝を上がって竜になるという中国の伝説に由来する、「こいの滝登り」という表現は、立身出生を意味する。古くは中国の伝説に従って、魚の王とされたが、江戸時代以降は鯛が鯉に取って代わった。

■ 鶴

「鶴は千年、亀は万年」と言われ、鶴は長寿でめでたい鳥とされている。そのため、「折鶴」を糸でたくさん繋いだ「千羽鶴」を病氣見舞いに持って行ったりする。祝儀用の風呂敷などにもよく鶴の文様が描かれている。白い美しい姿から、鶴には清純なイメージもある。昔話の「鶴女房」には、清純な魂を持つ鶴の化身とそれを取り巻く醜い人間の世界とが対照的に描かれている。

■ カラス

カラスのイメージは悪い。黒い姿、雑食性、耳障りな鳴き声などから、昔から不吉なことの象徴とされている。この点は、洋の東西を問わず同じである。

■ 竹

竹は強い萌芽力、まっすぐにすくすく伸びる成長力、常緑のすがすがしい姿、地下茎の豊かな広がり、などから繁栄の象徴とされる。竹はまた神霊を招くとされ、正月の門松に添える。中国では竹を、梅、蘭、菊とともに四君子と言ひ、君子のように節操の正しい植物と見られている。さっぱりした性格を「竹を割ったような」と言うように、竹は淡白さ、純粹さをも表す。竹は日常生活の中でも重要で、栽培用のほか、建築や生活調度品の材料になる。地震の時竹やぶへ逃げると安全と言う。竹やぶは地下茎が網のように広がり、ちょうどハンモックに乗ったような状態になるからである。

第四節 交 通

日本では、工業の発展に伴って、交通輸送量は年々増加しており、その中で陸上交通は重要な役割を果たしている。旅客輸送手段で輸送量が最も多いのは自動車で、次が鉄道である。高度経済成長期以降は、高速化を目指して、新幹線網や高速道路網の拡充が行われてきた。輸送貨物が軽薄短小化したり、需要が個別化・多様化しているため、宅急便などのように自動車による輸送はますます需要が高まると考えられる。また、地下鉄もよく利用されているのである。日本の海上交通には、瀬戸内海航路や沿岸航路があり、これらは古くから発達してきた。工業やエネルギー用資源・原料に乏しいので、必要な外貨を稼ぐため、輸入した原料を加工し、製品を再び輸出しなければならない。この輸入・輸出を支えるのが海運業である。空の交通と言えば、日本の航空機による旅客と貨物の輸送量も多く、とても便利で、日本航空と全日空が主な航空会社である。成田空港、関西国際空港や新千歳空港なども広く知られている。

■ 新幹線

1964年10月、東京オリンピックを控えて、営業時速210Kmで、東京と新大阪を